

## Google 時代の雑誌 (Lee C. Van Orsdel & Kathleen Born)

Van Orsdel, Lee C. and Born, Kathleen. Journals in the Time of Google.

*Library Journal*, April 15, 2006. <<http://www.libraryjournal.com/article/CA6321722.html>>

オープンアクセスに関する闘いが展開されている一方で、図書館員やベンダーや出版社はすべて電子が支配する市場の中で取引を続けている。

それは現実がぶつかる年であった。電子ジャーナルの売上がどんどん続いているが、一方で、ウェブ上の無料のあらゆる種類のコンテンツの掲載とクロールが学問の世界の想像力を捕らえてしまった。前者は後者によって影が薄くなったが、それはそのはずだ。図書館の全図書をまるごとデジタル化する対抗プロジェクトが見出しを独占し、著作権に関する白熱した議論を世界中に生じさせた。オープンアクセス・リポジトリの力強い成長と著者によるセルフアーカイビングの傾向は、当初は予約購読でしか利用できなかった、驚くほどの量の無料コンテンツをウェブ上によってたかって生息させた。

Google Scholar と Google Library の進行とともに、Google はウェブとそのコンテンツに対するユビキタスな玄関としての自己主張を高めた。2005 年 6 月に Highwire Press の研究論文への紹介の 56%以上を Google が占め、一方、有名な生命科学レポジトリである PubMed Central が 9%未満しか占めないと誰が予想できただろうか。その統計がさほど驚くに値しないとした場合、セルフアーカイビングに関する報告のために調査した 72%の学者が、ウェブ上の学術文献を見つけるために Google を使っていると認めているのだ。ありとあらゆる種類の規模と重要性を持つ雑誌出版社が、この現象を巡って事業計画を練り上げ、料金所 (tollgate) の背後にあるコンテンツにユーザを引き寄せることをねらって、Google や他のウェブ・クローラーとメタデータを共有しつつある。

オープンアクセス (OA: Open Access) 運動は、またもや 2005 年の雑誌市場における注目の的となり、価格問題や出版社の合併やビッグディールを覆い隠した。公共政策は世界中の裁判地 (in venues) で関係するオープンアクセスが取り上げられていることを評価する。米国と英国では討議は活発で議論を巻き起こし、そこでは根本的な改革が提案された。アクセスを制限する側であるが、ローマ法王庁でさえもが加わり、新旧のローマ法王の著作は著作権が保護され、もはや自由にアクセスできないと宣言した。それは、ベネディクト法王の著作の一部を印刷したイタリアの出版社に対して 18,500 ドルの著作権料の請求書までも送付したのである。福音主義者のねじれを伴いながらも、アクセスの喪失に対する否定的な反応は OA の言語と共鳴する。

雑誌出版社は高まるオープンアクセスへの関心にさまざまな形で反応した。一部は友好的に、一部はそうでなく。アメリカ化学会 (American Chemical Society) は、米国国立衛生研究所 (NIH: National Institute of Health) が設立したオープンアクセス・

データベースである、PubChem への資金援助を中止するよう議会を説得しようとし、無料の行政情報は不公正な競争をもたらすと主張したが、議会はその要請を却下した。多数の科学・技術・医学分野（STM: Scientific, technical and medical）の出版社は、OAの著者選択モデルや遅延OAを継続する実験や出版社の財政上の安定性を損なわずに科学の研究成果へのアクセスを拡大するその他の方法を開始した。

本年の定期刊行物価格調査（periodicals price survey）はこれらと他の定期刊行物市場を形成する要因について調査する。3つの科学情報研究所（ISI: Institute of Scientific Information）のデータベースである、Arts and Humanities Citation Index, Social Sciences Citation Index および Science Citation Index が本調査で使用したタイトルの大部分を提供する。さらに、私たちは EBSCO Publishing の Academic Search Primer のタイトルについてのデータを含めた。データは、ベンダーを通して注文が可能な予め価格が分かっているタイトル（prepriced titles : 継続発注タイトルや後で請求書が送られるタイトルと対照的なタイトル）で、2006年2月14日現在で発行されているものに限った。

### 市場の状況（State of the market）

オープンアクセスに関する闘いが全国的なあるいは国際的な場で展開されている一方で、図書館員やベンダーや出版社はすべて電子（all things electronic）が支配する市場の中で取引を続けている。カタログ価格（List Prices）は、交渉による価格が市場をしっかりと捕まえたので取るに足らないもの（a bit scarcer）となり、大規模出版社を代表して直接取引するより多くのセールスマンによって破壊された。主要な出版社による電子オンリー[取引]の値引きは平均して5%前後で安定しつつあるように思われるが、一部の最大規模の出版社は全く値引きをしていない。

雑誌価格は依然として衝撃を与える力を持っていた。1月に Emerald Press のタイトルである、*Journal of Economic Studies* の編集者は、彼の雑誌の9,859ドルという定価が市場と彼の感受性の両方と全く一致しないことに気がつき、辞任した。このタイトルは Social Sciences Citation Index の索引されていないし、この分野で2番目に高い雑誌の約3倍高い。破壊された市場を相手にするエネルギーは、しかしながら、機関リポジトリや OA 出版モデルへ移行し、高い価格の出版社が正気に戻り、雑誌価格を値下げする、というむなししい願いから離れたように思われる。

Google は、電子ジャーナルページ上のキーワードに広告（ads）をマッチさせるサービスであるアドセンス（AdSense）を通して雑誌市場のビジネスサイドにそれ自身深く食い込むことに成功しつつある。出版社は広告を選択しないので、雑誌や編集コンテンツに広告主による影響が現れることが完全に避けられる。ユーザがクリックすると Google と雑誌の双方に利益が上がる。*British Medical Journal* や *Journal of Clinical Investigation* や *Journal of Medical Internet Research* はアドセンスを利用している。

### 雑誌の人気をさらう図書 (Books upstage journals)

図書デジタル化プロジェクトは、2005年についてはすべて風説 (buzz) であり、そしてしばらくぶりで図書館のウォータークーラーのまわりのくだらないおしゃべりの中で図書が雑誌の危機の人気を奪った。Google Library はほとんどのマスコミに取り上げられた。その一流のパートナーや一部の出版社を激怒させた著作権のある作品もない作品もデジタル化するというずうずうしいその方針のせいだ。10月には、オープン・コンテンツ・アライアンス (OCA: Open Contents Alliance) が運営する図書のデジタル化プロジェクトであるオープン・ライブラリー (Open Library) の開始を見たが、それは Google のライバルである Yahoo と Microsoft が資金を援助していた。それは規模の面では Google と似ているが、著作権のある作品に対してはずっと慎重な態度をとっている。それは著作権保有者の許可が得られた場合のみスキャンされるだろう [OCA の詳細については本号と共に *netConnect*<sup>1)</sup> の 2006 年春号を参照]。図書スキニング・プロジェクトは、デジタル化した図書と雑誌を一つのパッケージに統合し始める雑誌出版社に対して市場を整備する助けとなるかもしれない。

### OPAC をフィードする (Feeding the OPAC)

この夏のいつか、TOCRoSS プロジェクトが、出版社や電子ジャーナルの目次データが直接図書館目録に押し込まれ、ユーザが雑誌論文をあたかも図書と同じように見つけ出せる RSS サービスを送付可能な、オープンソース・ソフトウェアをリリースするだろう。英国の合同情報サービス委員会 (JISC: Joint Information Systems Committee) は、出版社 Emerald および図書館納入業者 Talis とともにそのサービスを開発中である。

### 国境なきセット販売 (Bundles without borders)

セット販売やビッグディールは、それらを蔵書構築におけるトロイの木馬であるとみなす図書館員によって基本的に意地悪く抗議されたままである。図書館員は、選択の欠如や資料費の流動性の消失や図書館やコンソーシアムが購読価格の比較を妨げている非開示協定 (nondisclosure agreements) を嘆いている。経済学者や弁護士と協力して関係する図書館員は、巨大出版社の市場に対する締め付けを開放しようとする新しい戦略を立てている。今や彼らは独占禁止 (antitrust) というよりはむしろ競争阻害行為 (anticompetitive behaviors) について話しており、何人かの州検事総長はその主張に関心を持っている。

それにもかかわらず、差し当たりセット販売は王様である。最大規模の出版社は既に自らのコンテンツをセット販売し、次の階層 (tier) の出版社も同じことをしようとしている。ずっと小規模の商業出版社や学会出版社や外国出版社はより [コンテンツが] 浸透し、中止の脆弱性を減少することができる出版社と一緒にそれらのタイトルを保護しようとして望んでいる。大規模出版社の一部はこれらの関係を促進しつつある。たとえば、Springer は、東欧・中欧やロシアや中国の出版企業の科学雑誌を加えている。これらの新しい連携が加わることは、出版社のデジタル化プロジェクトから生み出さ

れた古いコンテンツ (legacy contents) の売り上げが着実に増え、セット販売の数と規模が増加すること予測してよいだろう。

### デジタル保険 (Digital insurance)

図書館がオンラインへの移行に全力を注いでいる一方で、デジタル・コンテンツのアーカイビングについての懸念が、昨年、相対的にみれば休止の期間の後に、世間の注目を再び集めた。二つの主要なアーカイバル・イニシアチブが進行中である。JSTOR とそのパートナーによって開発された Portico は、学術出版社から直接アーカイブを搭載し始めるこの夏から展開するだろう。調整された LOCKSS あるいは CLOCKSS は、図書館、出版社および学会の連合によって開発途中であり、2年間のテスト段階に入りつつある。両方の計画とも、出版社の倒産やサービスが中断する契機となる他のできごとが発生した場合、参加館に購読していたコンテンツへのアクセスを提供するだろう。

### 良い、悪い、ほどほど (Good, bad, and medium)

著名な経済学者である Ted Bergstrom と Preston McAfee は、公開書簡を大学の学長と学務部長 (Provost) に昨年秋に送付し、とりわけ、雑誌の経費が一定の妥当な水準を越えた場合、大学は出版社に対して教員へのサービスのため勘定書きを送るべきだと提案した (En Free Ride for Costly Journals “LJ 12/05”) <sup>2)</sup>。最も悪質な犯人を識別するために、Bergstrom と McAfee は、論文単価 (price per title) と引用単価 (price per citation) を使って各雑誌を良い価値、ほどほどの価値、悪い価値に順位付けする、約 5,000 タイトルの雑誌の費用を図示するウェブサイト ([www.journalprices.com](http://www.journalprices.com)) を設置した。詳細については論議が続いているが、結論の一つは選択の余地がない。すなわち、6つの大規模 STM 出版社の極めて高い割合 (平均 74%) の雑誌は、悪い価値のカテゴリーに区分され、一方で非営利出版社の極めて低い割合 (14%) の雑誌は悪い価値に格付けされる。Blackwell と Elsevier は悪いタイトルの割合が最も低く (それぞれ 55% と 68%)、一方で Sage, Springer, Taylor & Francis および Wiley はすべて 80% 半ばの割合である。このデータは、図書館員や学者が、雑誌の更新や雑誌の成功に役立つ時間や専門知識を提供する前に価格と価値との調整するように問いかけている。

### OA は影響を与えている (OA makes an impact)

2月中旬現在で、Directory of Open Access Journals (DOAJ) は、2,044 タイトルのピアレビューのある OA 雑誌を収録し、それは前年の同じ時期に比べて約 600 タイトル以上多い。それらの一部は、創刊されてから日の浅い雑誌が印象的なインパクト・ファクターを獲得することでオープンアクセスの力を明示しつつある。出版 2 年目で、PLoS Biology は 13.9 のインパクト・ファクターを持ち、それは世界の一般生物学の雑誌の最高のランクに位置付けられ、BioMed Central が出版する 5 つの OA 雑誌はそれらの専門分野の上位 5 番目までの雑誌にランクされた。これらの成功は、同じ年の同じ雑誌の OA 論文が非 OA 論文に比べて 25% から 250% の間で引用が多いという調査で裏打ちされている。良く引用されるその報告書は [epirnts.ecs.soton.ac.uk/11688](http://epirnts.ecs.soton.ac.uk/11688) にあ

る。

OA 雑誌はそれ自身を支援する広告や助成金・財政援助に依存している。二分の一未満が著者に手数料を請求しており、学協会出版社協会 (ALPSP: Association of Learned and Professional Society Publishers) のオープンアクセスについての報告書に驚くべき知見がある。事実、調査によって予約購読ベースの雑誌がオープンアクセス雑誌に比べて著者に手数料を請求する可能性がずっと高いことがわかった。しかし、同じ報告書によれば、本調査が対象とした OA 雑誌の 40% は有り体にいえば黒字ではない。

### **学者は成長している (Scholars get smarter)**

学会はオープンアクセスを利用においても実践においてもゆっくりと受入れつつある。10 月にリリースされた CIBER (Centre for Information Behaviour and the Evaluation of Research) の調査は、OA について知っている学者の数が著しく増えたことを示した。調査した研究者の 29% がオープンアクセス雑誌に出版し、前年を 18% 飛び越す大幅な伸びをその調査は見いだした。5 月に公表された Key Perspectives の別の報告書で Alma Swan と Sheridan Brown は、調査した著者の 81% が、助成機関あるいは大学が命令した場合、OA リポジトリに彼らの研究成果を積極的にアーカイブするつもりであることを示した。わずか 5 つの研究機関が現在、教員に出版された学術成果に対するオープンアクセスを義務化しているに過ぎない。そのすべてが米国ではない。

### **助成機関は賢くなる (Funders get wiser)**

学術出版社の 93% がピアレビュー論文のプレプリントまたはポストプリントを著者のウェブサイトあるいは機関リポジトリにポストすることを認めているが、今までのところ実際にそれを行なっている著者の割合は少ない。そういう訳で、ますます多くの大規模研究財団が助成研究の成果であるピアレビュー雑誌論文を、通常、出版後 6 ヶ月から 12 ヶ月の間でオープンアクセスにするように要求している。以前は著者によるセルフアーカイビングが役立たずだと見なしていた出版社は、今や現行のセルフアーカイビングのしずくが激流になることをおそれている。一部の出版社はセルフアーカイビングの禁止期間を延長しつつある (著者がウェブに論文をポストできる以前より大きな遅れ)。学者は助成機関と出版社の板挟みになっているが、学者が助成の継続を望むならば、助成機関は研究者が義務化の要求に応じることを強制していくことができるという証拠が浮かび上がりつつある。

### **出版社は大胆になる (Publishers get bolder)**

大規模 STM 出版社のうち 4 社が、現在、著者に出版している雑誌の全部あるいは一部にオープンアクセスのオプションを提供している。Springer (Open Choice, 1200 タイトル)、Blackwell (Online Open, 80 タイトル)、Oxford (Oxford Open, 42 タイトル) およびアメリカ物理学会 (Author Select, 3 タイトル)。著者が料金を前払いする (通常、助成金を使用) 場合、当該論文は出版されるとすぐにウェブ上のすべてに無料で

公開される。出版社は一つの雑誌の研究論文を無料にするように、費用の支払を引き受ける広告や財政援助を探している。たぶんここに Google のアドセンスのような製品の役割がある。

### **OA, DC に行く (OA goes to DC)**

かつて 2004 年に議会は NIH に対して NIH が助成しあるいはピアレビュー雑誌に報告された医学研究について納税者のアクセスを与える方針を展開するように要求した。この計画は著者が NIH の OA リポジトリである PubMed Central にそれらの論文を直接アーカイブするよう命令するものであった。出版社からの強い圧力を受けて、NIH は 2005 年初めに非常に軟弱な方針を提出した。秋には、資格のある論文の 4%未満しか預けられず、その方針は失敗であると広く認識された。本稿の執筆の時点で、その方針を強化しようとする報告および勧告が議会の歳出予算委員会で審査されていた。

NIH の提案に対する別の反応の中で、57 の学会出版社は、PubMed Central からそれらの雑誌の NIH 助成論文に無料でリンクを提供すると NIH に提案した。本提案は寛容で抗しがたいように思われる。問題なのはそれが議会からの他の二つの指令への対応—NIH サイトにおける永久保管と NIH の研究を追跡し、検索する共通データベースを阻むことである。

議会は NIH の全面的な協力を待たないかもしれない。上院議員の Joe Lieberman (D-CT) および Thad Cochran (R-MS) は 2005 年 12 月に CURES 法を提案した。それが通過すると、政府が助成した、出版されたすべての医学研究が実質的に出版後 6 ヶ月以内にオープンアクセスとなることを義務化するであろう。もっと広範囲に及ぶ法案がこの春に提案されることが予定されている。これらのいずれもが、既存の NIH の方針を乗り越え、助成したコンテンツの利用について政府の資格を強引に行使し、出版社の申し立てを無効にする。

### **外国の OA (OA abroad)**

イギリスは、この秋、資金助成を受けた著者が、各地のオープンアクセス・リポジトリのシステムにピアレビューした知見の収納を促進する英国研究委員会 (RCUK: Research Councils of UK) の提案についての議論に費やした。RCUK は 35 億ポンドの政府資金を医学研究の支援に配分し、それは年間 130,000 論文を生み出している。新しい方針の実施の遅れは明らかに一握りの学会と STM 出版社からの強い抵抗によるものである。期待は、RCUK が 2004 年に議会がそれをするのに物怖じしたことを達成することであるが、それらの選挙区に本社のある、これらの同じ出版社の機嫌を損ねることを心配しそうである。

### **2007 年に何を期待すべきか (What to expect in 2007)**

大学図書館は 2006 年に価格が全体で 8%未満値上りするのを見た。非米国のタイトルは 8%以上上昇し、一方米国のタイトルの値上りは 7%未満であった。通貨は出版社

が主要な STM 出版社の大半が今や米国ドルで価格設定する大きな要因ではなく、2006 年の価格を設定したときに、ユーロおよびポンドの両方に対してドルはうまく働いた。国内通貨で価格設定する非米国の出版社について、米国の顧客には差額が少し生じたが、それはたったプラスマイナス 1%から 2%の範囲であった。2 年連続で、価格の値上りは予測よりも幾分低かった。世界経済に激変がなければ、2007 年の値上げが 7%から 9%の範囲に留まると推定するのはおそらく筋が通っているであろう。

注

1) <http://www.libraryjournal.com/index.asp?layout=netConnect>

2) <http://www.libraryjournal.com/article/CA6289896.html>